



ものづくり大学(埼玉)が完全再現

プレハブ住宅の原点「ミゼットハウス」

ロイヤルホテル能登で

ものづくり大学(埼玉 県行田市)の三原研究室は9日、志賀町内のロイヤルホテル能登で、開学20周年記念事業「ものづくり大学によるミゼットハウス寄贈」記者発表会と、復元プロジェクトとして大和ハウス工業が開発し、プレハブ住宅の原点とされるミゼットハウス(M-59-2型/4・5帖タイプ)をホテル館内で組み立てて、完全再

現を果たした。写真。ミゼットハウスは1959(昭和34)年に販売開始後、安定した品質で大量生産が可能な工業化住宅へと発展し、住宅産業に多大な影響を与えた。三原斉教授は2015年4月から20年3月までの5年間に、研究室の学生たちが現存するミゼットハウスの現地調査などを行い、設計図面を作図し、模型も忠実かつ精巧に制作。各部材も一部を除いて手作りで制作するなど、完全再現への経緯

を紹介。一方、組立作業は4年生8人が手掛け、床の順に進めて3時間2分で完成させた。寄贈先で、常設展示する同ホテルの松山隆一総支配人は「多くのお客様に見てもらえれば」と話した。

